

170

特247

135

社 鶴見製鐵造船會社
長

淺野良三述

支那事變の處理と

我國鐵鋼業の進む道

世界經濟情報社



始



40

10

第247
135



鶴見製鐵造船會社
社長 淺野良三述

支那事變の處理と
我國鐵鋼業の進む道



世界經濟情報社

内 容 目 次

- 一、鐵鋼増産滿洲中心に就いて……………一
- 二、ローマは一日にして成らず……………三
- 三、鐵鋼業内地中心は歴史的事象也……………六
- 四、資源が近いと言ふ眞意味……………八
- 五、利潤追及排撃すべきか……………一一
- 六、東亞協同體の理想……………一四
- 七、先づ何よりも増産が急務……………一五

支那事變の處理と 我國鐵鋼業の進む道

一、鐵鋼増産滿洲中心に就いて

事變目的遂行中の我國經濟界にとつて、最も根本的且つ重要な課題の一つは、如何にして鐵鋼生産力の擴充を圖るかといふ事である。半トンでも、一トンでもいくらでもよい、どれ程僅かな鐵鋼でもより多く増産せしめたいといふのが國民の一致した希求であらう。

既に早く、當局はこの目的達成のため、鐵鋼増産五ヶ年計劃を樹立し、日鐵とアウトサイダー

が相協力してこれが實現につとめつゝあるのであるが、こゝに我々が些さか奇怪にたへないのは、最近世の一部に放送されつゝある『鐵鋼増産意見』である。

即ち、これに依れば、現在商工當局が主導となり、日鐵及びアウトサイダーが之れに協力し、以て進められつゝある鐵鋼増産計劃は、重大なる誤謬をその中に含むものであり、その限りにおいて根本的に之れを改訂編成替へを爲さねばならぬといふのである。

如何なる點が誤謬なるかといへば、目下すゝめられつゝある鐵鋼増産計劃は、内地中心主義であつて、滿洲は従たる地位におかれてゐる。ところがその中心を爲す内地は、鐵鋼業に就いてどれ程めぐまれた條件にあるかといへば、まるでその適格性を缺いてゐる。第一に原料がない。その原料の殆んど全部は、之れを原鑛石及びスクラップとして海外よりの移輸入に仰いでゐる始末である。亦、鐵鑛精煉に絶対必要なコークスが殆んどない。これも外地乃至外國から移輸入して間に合はせてゐる。

之れに反して滿洲國は如何といへば、鐵鑛石及び鐵鑛精煉用石炭には豊富にめぐまれた世界的の特恵地である。今日までの確定埋藏鐵鑛量二十億トン（推定最低五十億トン）同じく石炭は三

百億餘トンで、原料地としてめぐまれてゐることは内地の比ではない。かくの如く滿洲は鐵鋼業にとつて極はめてめぐまれたる土地柄たるにもかゝらず、空しく内地鐵鋼業の後塵を拜するの已むなき状態におかれてゐるといふのは甚だ不都合である。

かゝる不都合は抑々何に依つて緣由したるものかといへば、第一は内地鐵鋼業者が『利潤第一主義』の立場を離れ得ず、ひたすらに原料を採算について不安のない海外富鐵に頼り、企業採算について不安ある滿洲貧鐵に對しては見向きもしないことこれであり、次には當局の熔鑛爐許可方針が、從來全たく無定見であつて、矢鱈に申請するものには善惡の見境なく許可を與へたため、資源なき内地に熔鑛爐ばかりが林立する様になつたことこれである。

二、ローマは一日にして成らず

然してかゝる不都合を是正せんが爲めには、先づ内地鐵鋼業者の精神を根本的に改造して、『利潤第一主義』の立場を放棄せしめ、ある場合には採算を無視しても滿洲貧鐵を利用して、鐵鋼生産を圖る様にして、自給自足を漸次實現せしめると共に、他は、從來の内地中心の鐵鋼政策

を根本的に改變し、早急に滿洲中心の鐵鋼政策を樹立する様にせねばならない。

自由主義經濟の時代においてならば、『利潤追及第一主義』も當然のこととして許されたのであり、その限りにおいて差引して採算に合ふものならば、海外から原鑛やスクラップを輸入して、製鐵をしてもよかつたのであるが、最近の經濟は『國防産業第一主義』であり、その必然の歸結として、鐵鋼の自給自足といふ事になれば、たゞ採算が合はぬからといふ理由だけで、立派な滿洲の鐵鑛資源をすておいて、富鑛を海外から輸入する事は許すべき事ではない……云々。

右の如き意見は、我々製鐵業に從來してゐるものから見ると、多分の疑義を含むものであり、遽かに首肯し難い節がおほいのであるが、尙ほ相當有力に識者の間に浸透しつゝありと想像されるのである。

論者は、現在の鐵鋼生産計劃は内地が中心であつて滿洲は従たる位置を與へられてゐるにすぎぬ、これは不都合だといふ。滿洲國の我の我國に對する不二體的關係は、言ふもおろかな事であつて、滿洲を重要視すべしといふ論者の意見には賛意を表するに決して吝さかなものではな

いが、その滿洲が正式に日本の勢力範圍に這入つて來たのは何時かといへば、昭和六年の滿洲事變以降である。六年、七年は戰亂やその跡仕末でゴタ／＼してゐたから、正確には昭和八年以降といへる。その昭和八年から滿洲は急速に内部を整備しはじめ、色々な調査も行なはれ、それまで茫漠曖昧だった大滿洲の全貌が徐々にわれ／＼に解つて來たのであつて、論者が口を極はめて言ふ滿洲の鐵鑛資源や、石炭資源の大様、乃至その利用價値の程度如何といふ様な事が、内地の人間にわかつたのはつい最近の事に屬する。その間いくらかも時日が経つてゐないのであつて、昭和六年から數ぞえても十年足らず、昭和八年から數ぞえるならば、正味七年にしかすぎない。

十年一ト昔といふが、一ト昔足らずの短かい時日の間に、鐵鋼業といふ様なジツクリと腰をすえてかゝらねばならない産業は内地を凌ぐほど急速に發展させたいといつてもそれはのぞむ方がむしろ無理なものはあるまいか。それは内地の製鐵業者の時局認識が足らぬとか、『金儲け第一主義』にとらはれて、滿洲をとかくまゝ子扱かひにするとか言ふべきではあるまい。何よりも時間が経つてゐないのである。『ローマの成るには一日にして成れるにあらず』といふ。ホンの僅かな事をすら、これを徹底的に研究しやうとおもへば三年五年はすぐ経つてしまふ。滿洲國の鐵鋼

業の確立といふ様な、國家的民族的の大問題を、五、七年の間に何とか目鼻がつく様にしたいといふのは、餘りにも氣の早すぎる考へ方ではあるまいか。

三、鐵鋼業内地中心は歴史的事象也

むしろ私は、滿洲國の諸産業、就中製鐵業の現状に鑑み、それがつひ最近まで如何に素朴な貧弱なスケールのものであつたかを思ひ合はせて、それがほんの短かい時間の間に、かくも股盛活潑になつたといふ事を考へて見る時、滿洲國創業の志士仁人の功績と並んで、内地の事業人の没我的献身振りも相當高く評價されてよくはなからうかとさへ思ふのである。

現在の我國の鐵鋼政策は、論者の言ふとほり如何にも内地が主となつてゐる。だがそれはほとんど歴史の緣因にもとづくものであつて、殊更らに外地の鐵鋼業を白眼視する政策に由來するものではないのである。滿洲が若し日本内地よりも、早く開發されてゐたならば、情勢はむしろ逆になつてゐたらうし、否極端な場合を考へて見ると論者も言ふ様に鐵鑛なき、石炭なき内地には、滿洲鐵鋼業の後塵を爲する様な事態さへも展開し得なかつたかも知れない。

我々の率直な意見としては、内地が主でも滿洲が主でも、要はたとへトンでも、半トンでも鐵鋼がより多く生産されさへしたらそれでいゝではないかと思ふ。内地中心主義がいかぬとか、滿洲中心でなければならぬとか、日本と滿洲との間に窮屈な障壁を立て、『俺が先だ』お前が先だ』と言ひあふ前に、現實に何程でも鐵鋼を増産することが必要なものではないか。それが滿洲であらうと内地であらうと、とにかく鐵鋼をつくることならば、『増金第一主義』の立場からこれを保護し助長してやるのが、事變目的の遂行、事變の究極的處理といふ大目標を控えた我國官民の一致した進み方ではあるまいか――

――我々はいかういふ考へ方の下に仕事をしてゐるのであつて、論者の言ふ様に『内地中心主義』の立前をとれば、自分達の利益だからといふ様にさもしい氣持は我々の夢にも考へ及ばない所である。

又論者は當局が無定見に何でもかでも申請するものに許可を與へたため内地に熔鑛爐を濫立せしめ、『内地中心主義』に拍車したといふが、これは事實に當つてゐない。論より證據、自分が關係してをる會社では、申請してから許可を得るまでには三年もかゝつてゐる。内地鐵鋼業の歴史

八

について少しく思ひ及ぶならば、かゝる意見はとるに足らぬ所以を立所に明白にするであらう。

四、資源が近いと言ふ真意味

論者は内地の製鐵業者は『利潤追及第一主義』であるからいけないといふ。『利潤』や『採算』にとらはれてゐるから、滿洲國の貧鐵處理といふ様なソロバンにのるかぬか解らぬ仕事には、とかく危なかしがつて手を出さず、自給自足經濟の確立といふ事を忘れて、とかく採算關係の安全な海外富鐵に頼る傾向があるが、これははなはだ面白くないといふ。この意見も我々から言はせると、随分窮屈な話だと思ふ。

たとへ一トンでも半トンでも鐵鋼を増産することが、刻下の至上命令である限り、何も技術的に困難の多い、滿洲貧鐵に執着する必要はあるまい。利用し得られるものならば、國籍の如何を問はず、之れを利用すればいゝので、例へば現在内地の鐵鋼業がその原料を仰いでゐる南洋の鐵礦の如き、それが歐米諸國に屬するからといつて、一概に之れを排斥するのは餘りに度量のせまい島國根性ではあるまいか。

論者は歐米諸國に頼れば一朝有事の際はどうかといふけれども、若し現實に海外から鐵礦が來ない様な事態が展開した場合は、軍艦でも何でも派遣して既得の商權を保護すればよいではないか。我々が海外の富鐵を原料として使用してゐるのは、『利潤追及第一主義』ではない。これらの富鐵は滿洲の貧鐵と比べて能率其他において比較にならぬほど優秀だからである。要するに手間がかゝらず、いゝ品物が出来るからである、このところをよく考へて欲しいと思ふ。

更にこれに關聯して海上の輸送は陸上輸送に比べて非常に有利だといふ點を注意する必要がある。大體陸上輸送は海上輸送に比べて、十倍から二十倍の運賃の掛りましになるので、假りに堅く見て十倍として現在日本の勢力圏内の各鐵礦山の經濟距離を上げて見ると

八幡から各鐵礦山までの經濟距離の比較(軒單位)

利源	八九	ヅングン	四七六
茂山	一八二	ジョホール	五二三
大平	一五五	龍烟	五四五
大冶	二二五	東邊道	四六〇

カランバヤンガ	二四五	本溪湖	五七七
スリガオ	三〇六	ヤンピ	五七六
金嶺鎮	三七九	ニウカレドニア	七二二
鞍山(營口積出)	四四一	印度山元	一、一〇〇
イボンヌ	四五五	ワイヤラ	一、一三〇
セブレーク	四六八		

以上の表に依つてもわかる様に、近い近いといはれてゐるところが、經濟距離においては案外に遠く、遠いと思はれてゐるところは反對に近い事を發見する、たゞ地圖の上の距離のみを測つて「近い」「遠い」を決めることは、資源關係においてはあてはまらないので、右表で見ると滿洲鐵礦は南洋鐵礦よりも經濟距離が遠いことになる。

經濟距離が遠いといふ事は、それだけコストが高くかゝるといふ事で、成程「自給自足」が大切かも知れないが、どうしてもさうしなければ鐵が出来ないといふならば格別、左程緊迫した理由もないのに、ワザ／＼要らぬ金をかけてしかも能率のわるい貧礦に執著する必要があるまいと

おもふ。

五、利潤追及排撃すべきか

事の序で乍ら論者が口を極めて排斥する『利潤追及第一主義』といふ事について些さか愚見を述べて見たい。

論者に従がへば『利潤追及』といふ事は、何か非常に罪惡を犯してゐる様な具合に受取れるが、人間が仕事をすることに就いては自づから一定の目標といふものがなければならぬ。たとへば學者は何をめぐめてに勉強するかといへば博士とか、何とかタイトルを取りたいためである、官吏は位階勲等が上がりたいために事務に精勵する。それは數ある學者や官吏の中には、そんなものは目標にしないといふといふ人もないではないが、大多數はタイトルを目めてに勉強し、事務に精勵するのである。それを何人もわるいといはぬ。人間は神様とちがふから沒我的といつても一定の限度があり、又それは當然のことである。然らば、事業家は何を目標に仕事をするかといへば、それは『利潤』が目標である。

『利潤』が目標たといつても、金をためてゼイタクをしたいとか何とかいふのではない。仕事を
するメヤスになるものが『利潤』だといふ意味である。差引採算がとれるから仕事をする、何程
か儲けがあるから仕事をする——これが事業家のいつはりのない氣持である、はじめから利潤の
ない事がわかつてゐる、ソロバンに乗らぬ事がわかり切つてゐる仕事を、それも外に儲かる様
な仕事がないならば格別、立派にあるにもかゝらず、そんな仕事に手を出して無駄骨を折りたい
と思ふものは餘程の變り者でなければ居るまい。一人や二人はさういふ人間もゐやうが、それ
以て全般を推すことは出来ない。學者や官吏がタイトルや名譽めあてに、仕事をする事が許され
て、事業家が利潤めあてに仕事をする事がいけないとは、一寸腑におちかねる理窟である。

偏した物の見方をする人は、内地の製鐵業者は我利我利でかたまつてゐるかの様に極端な言辭
を要しやすいが、日本鋼管なども最近黒字を出してゐる様なものゝ、かつては随分ひどい時
もあつた。五十圓拂込みの株價が三圓、五圓といふみじめな市價で、のしをつけても貰ひ手のない
様な時があつた。勿論その時には『利潤』も『儲け』もあらうはづはない。毎期つゞいて深刻な
赤字の連続だつた。

鶴見製鐵だつてその通りで、屢々減資して缺損を縮少し辛うじて命脈をつゞけた期間もあつた
ので、日本の製鐵業は決してこれまで左團扇でうのうとして伸びて來た事などは一度もない。
このことをよく考へる必要があらうと思ふ。

次に『國防産業』とか『平和産業』とかわけて、その間に劃然と線を引いて『國防産業第一主
義でなければならぬ』とか『平和産業は彈壓すべし』とかいふ論理も随分おかしなもので、かつ
て亡父の總一郎が東京灣埋立の事業をはじめた時は、何も『國防産業』だとか『平和産業』だ
とか固くるしく考へてやつたわけではない。父にして見ればむしろ『平和産業』のつもりかも知れ
なかつた。それが今日は、父の埋立てした地域百五十萬坪の一帶は『國防産業』の重要な土地と
して、數々の軍需工業が林立して、煙を吐いてゐる状態である。其他セメント事業にしろ、東洋
汽船にしろ、『平和産業』といはれてゐるものだがそれがこの時局下において如何に國防上役立つ
てゐるか、クドク／＼申しのべずとも明白であらう。時がうつり、環境がかはれば、あらゆるもの
は變はつてしまふ。何事によらず固くるしく區別をつけて説き立てる事は生きた社會事象の解釋
には禁物である。

六、東亞協同體の理想

要するに現在、世の一部に唱道されてゐる様な『鐵鋼政策』は、我々から見ると餘りにもスケールが小さく、コチ／＼に固まつて身うごきも出来なくなつてゐるといふ感じが深い。滿洲の重大性を叫ぶこともよい。又『東亞協同體』の理想を語ることも決してわるくない。だがそういう事を唱へることに依つて、『滿洲鐵鋼業』の『内地鐵鋼業』に對する優位を主張しやうとしたり、又は内地の製鐵業の健全な發達を阻害しやうとしたりする事は嚴につゝしまねばならない。日滿は一如といひ、一體だといふが、その限りに對して内地と滿洲との間に優劣高低をつけるべきいはれない。滿洲が大切なら、同時に内地も大切だ。内地と滿洲とは相並んで一體として足並みそろへてのびて行かねばならないので、内地の犠牲において滿洲のみの繁榮を圖らうとする事は我々のとらざるところである。

更にこれを支那におしすゝめて、所謂『東亞協同體』について考へて見ても同じことで、『東亞協同體』とはまさか、日本を肥料にして支那といふ木をそだてる事ではあるまい。日本の利益の

ために支那を搾取してはならぬと同じ様に、支那をのばすために、日本が萎なびてしまはねばならないとする理窟はあるまい。最近、色々な人々によつて『東亞協同體の理想』がとかれてゐるがこゝいら邊がどうもハツキリと國民にのみこめる様にとかれてない様である。そのため、私は外國人から『東亞協同體つて一體どんな事をいふのだ』と聞かれても、よく返事が出来ない事がおほい。

日滿關係も、東亞協同體も、その理想は文字通り共存共榮でなければならぬと思ふ。日本もよく、支那もよく、滿洲もよい。そうしたものでなくては、國民に本當にわかつたものといへまいし、又實現もおぼつかないものと思ふ。

七、先づ何よりも増産が急務

名實共に東洋の盟主たるべき運命を擔つたこれからの我國人は、何事にもしろ、ケチくさい島國根性や、神經質な對立比較考量の考へ方をすてゝ、もつと雄大な悠暢せまらない物の考へ方をして行かなければならぬ。よいところはとり、悪いところは捨て、つまらない悪感情などに支配

されずあらゆるものを利用しあらゆるものを包攝する様なユトリのある氣分でやつて行かなければならない。

内地の製鐵業は、今や世界有数の規模にまで發展をとげ、これから先も益々發達しやうとしてゐる、この事實を素直に見て行かなければならない。鐵もなし、石炭もなしといふが、その鐵もない、石炭もないところに、現在の様な大製鐵業を繁榮せしめたこの民族の生々たる活力をもつと虚心淡懐に評價せねばならぬ、事業の勃興は、決して資源が近くにあるといふだけでは興るものではない。どこまでもこれを活用する人の問題である。フランスは鐵鑛石の國內生産量は需要高に對し一七三・七%といふ高率を示し、外國には七六・二%の輸出をしてゐるのであるが、そのフランスは製鐵國としては僅かに國內生産二九・五%にすぎない獨逸のはるかに下位に立つてゐるといふ事は（自昭和七——至昭和拾一平均）一體如何なる事を我々に示唆するであらうか。

事業はどこまでも人の問題であつて、物の問題でないといふ、これ程端的な例證があらうか。滿洲には尤大な鐵鑛があり、鐵鑛製煉に缺くべからざる石炭も頗る豊富だといふ、これほどよろこばしい事はない。これを利用して論者の言ふ様に、大々的に彼地に鐵鋼業を盛ならしめるこ

とは我等も双手を上げて賛成である、どうか一日も早く、滿洲國が世界的水準を有つ鐵鋼生産國になつてもらひたい。

だがそれと同時に滿洲國の人達にも、内地の鐵鋼業の發達を冀念して戴きたい。内地の製鐵業を主とせられてゐるがために、滿洲の鐵鋼業が思ふ様に發達しないのだといふ様な考へ方は、一身同體ともいふべき不可分な日滿關係にギャツプを生せしめ、お互に不幸になる以外の何物でもない事をよく銘記しておいて戴きたいとおもふ。

現在諸外國においては争そつて鐵鋼の生産に邁進してゐる、アメリカのU・S・スチールなどは一社で以て實に二千萬トンもの尤大な生産量を出してゐる。事變直前の日本の鐵鋼生産力から見ると、實に四倍以上であつてそれをアメリカではたゞ一社で以て出してゐるのである。

それを思へば今日日本で『内地が先だ』いや滿洲が中心でなければならぬ』といふ様な青くさい理窟をこねまはしてゐる時ではあるまい、何をおいてもたとへ半トンでも一トンでも、鐵鋼を餘計に出さねばならず、その至上命令の前には、日本も滿洲も支那も虚心淡懐一體となつて目的達成につとめねばならぬ秋である。

昭和十四年十二月五日印刷
昭和十四年十二月十日發行

定價金貳拾錢

不許複製

編輯兼發行人

永田

耀

東京市麴町區內幸町二丁目六番地

印刷所

安久

社

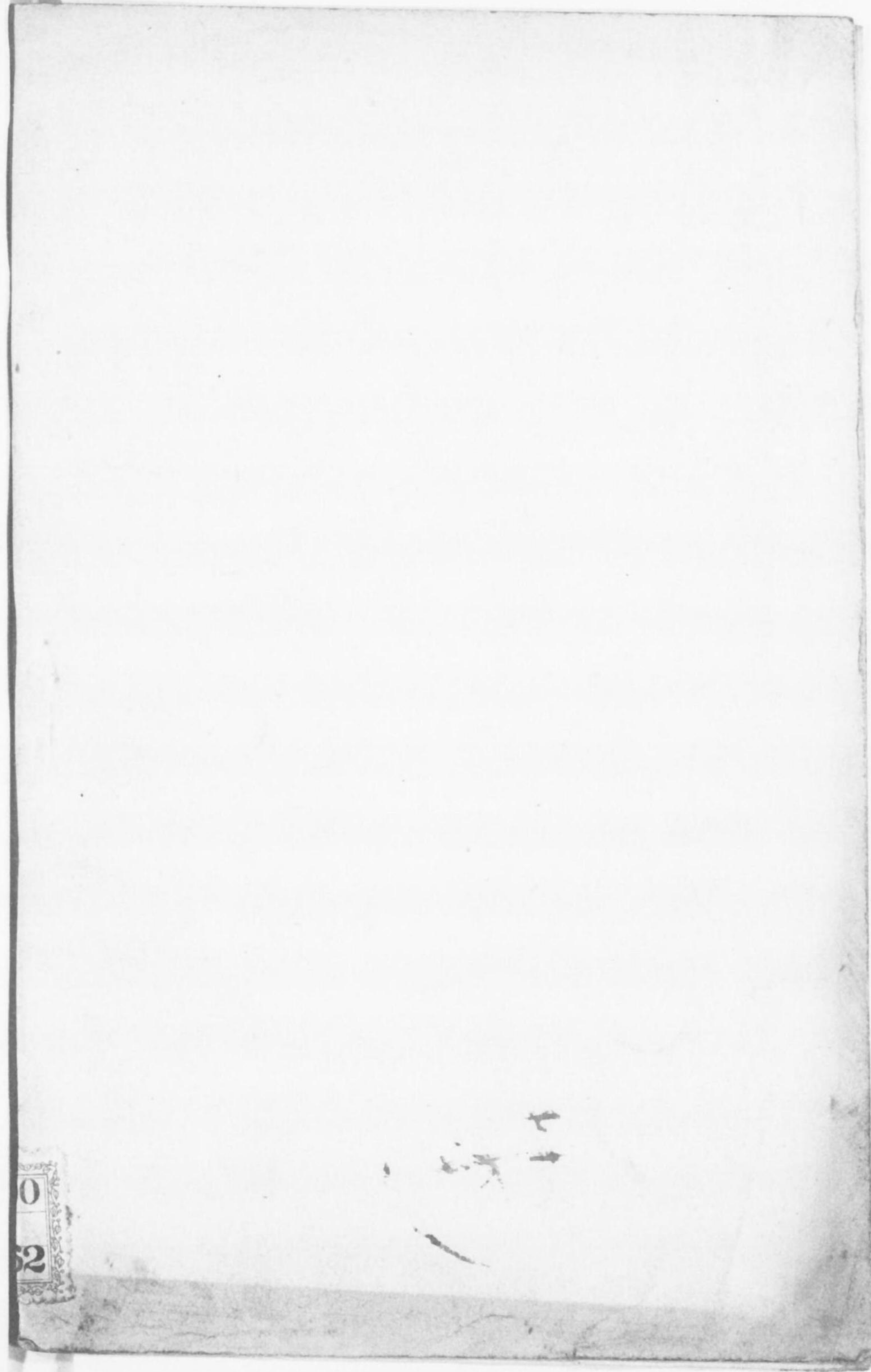
東京市麴町區內幸町二丁目六番地

發行所

世界經濟情報社

電話銀座五三六九番

終



0
2